

# かいごのおしごと すごろく

## かいごってどんなおしごと？

●入居者さんがひとりではできないことも、少しのサポートでできるようになり、「ありがとう」と笑顔で感謝の言葉をかけられたときはうれしく感じます。

●「〇〇さんでよかった！元気になる。これからも頑張るな。」と、介助の際に言葉をかけられたとき、介護をして支えている自分が逆に入居者さんから元気をもらっていると感じます。

●毎日の会話の中で昔の出来事や体験などから学ぶことが多くあり、自分自身の成長につながります。

●入居者様は、片足の付け根から先が義足で入所前は在宅であったため、運動の機会も少なく体力低下が著しく、数メートル歩いただけで動けない状態であった。入居後、「歩きたい」との思いを訓練士に伝え、日々施設内で訓練士と歩行訓練を繰り返す。ある日、「息子とコーヒーを飲みに行くのが俺の夢だ」と話される。訓練士は、息子さんと話し合い、訓練を繰り返した。そして、すべてを歩いていくことはできなかったが息子さんと食事とコーヒーを楽しむための外出を行えるまでに回復された。施設での日常は続いたが、ある日、入居者さんから「ありがとう、夢が叶った」と笑顔で言われたことは、今でも忘れることができない。

●餃子が大好きだったおじいさんが、特養ホームに入居されました。親分肌で、自分があまり食べられなくなっても、「みんなでうまいもん食うべ。餃子なら腹いっぱい食ったって、金など無くならないからよー」と職員の方々に言うてくれて、実際に行事でみんなで餃子を食べたこともありました。豪胆な人柄と面倒見の良さは最期までご健在でした。餃子を食べると、この方のことをいつも思い出します。

★介護労働安定センター山形支所では、「かいごのおしごとすごろく」を作るにあたり、介護のお仕事に従事されている皆様に、職場での心に残るエピソードを募集しました。すごろくのマスは介護職の皆さんから寄せられたエピソードを参考にして作りました。実際に寄せられた「介護士さんのエピソード」をご紹介します。

●ご利用者さんたちは、とてもお話しが上手です。お花見や七夕など、季節の行事を「楽しかった！」と生き生きと話して聞かせてくれるので、私までやってもいけない行事を「楽しかったなあ」と思ってしまう程です。

●ご利用者さんにとって必要なこと、心や体に力がつくようなことを話す仕事。その方のためにならないことを話さない仕事。そう考えると家族も友達もご近所さんもママ友も、そして、ご利用者さんもみんな同じ、大切なひと。こんなステキな仕事はないと思います。

●介護支援専門員（ケアマネジャー）は毎月、ヘルパーさんやデイサービスを利用者さまと一緒に考えるため、ご自宅を訪問します。寒い冬、吹雪になりそうな日に、利用者のおじいちゃんから「俺は大丈夫だ！帰り気を付けて帰れや！」と温かい言葉。介護の仕事は心が通い、お互い思いやりの仕事。

●お風呂が苦手な入居者様の入浴介助の時、頭や体を洗っているとき、「嫌だ！やめろ！」ときっぱり拒否。しかし、お風呂からあがると「ありがとう様な」と言われ、大変だったけど、気持ちよくなってくれてうれしくなりました。

●4月の桜が満開の時期のおはなしです。ある入居者様が車いすにも乗れず、外に桜を見に行くことが難しくしたら桜と一緒に楽しんでもらえるだろうと考えていました。そこで、だんご木で使ったミズキの木に桜を飾り、まるで満開の桜が咲いているようにしてみました。その時、手をのばして目をキラキラさせて「桜きれいだ〜」と喜んでいただいた姿はいつまでも忘れられません。

# かいごのおしごと すごろく かいごってどんなおしごと?

●食事のお誘いに伺うと「食欲がないの。」と言っていた利用者さんに「食べられるだけで良いですよ。」と伝え、後から確認すると全て召し上がっていました。「食欲がないから全部は食べきれないわ。」とお話しされていたので、体調が悪いのかと心配しましたが、全て召し上がり、満足そうな表情をしている姿を見て一安心。ほっこりした気持ちになりました。

●人と関わる仕事がしたいと、介護職を希望。入所者様からの「ありがとうございます〜」で、心癒されます。

●築40年近い建物だけど、、、「キレイなところだね〜」と繰り返しほめてくれる。前向きな言葉に癒される。

●春は花見、夏は夏祭り、秋は文化祭、冬はクリスマス会、節分、ひなまつりなど、1年を通して入居者様と共に四季の行事を大切にしています。最近ではコロナの影響もあり、受け入れ中止していますが、地域で活動されている歌や踊りの団体様の訪問も楽しみの1つとなっています。

●介護とは、「してあげる」ではなく、少しだけお手伝いをする事で、その人ができる事をよりやり易いようにすることだと思えます。

●「ありがとうございます」と言っていただけでももちろん嬉しいですが、「結構です」「しなくていいです」と言われることもあります。その時に何故そのように言われるかと考えることで、自分が今、伝えたこと、やろうとしていることが、介護される人にとって、本当に「心地いいのか」「してほしいのか」と知ることが出来ます。相手の気持ちになって考える。これが大事だと思えます。

●おじいさん、おばあさんは、じんせいのだいせんばい！！たくさんのおしごとをおしえてくれるよ。

●かいごのおしごとは、えがおとありがとうがあふれるすてきなおしごとです。まいにち、たのしいよ。

●入居者様が「ちょっと話し聞いて」とおっしゃるので、向かい合い、真剣にお聞きしました。どうやら、若い頃の恋の話のようでした。「私ね、若い頃、モテたのよ。素敵なお相手もいたの。」と嬉しそうに話してくださいました。「あなたに特別にいいものを見せてあげる。」とハーモニカの入れ物を見せてくださった。ハーモニカは以前より得意でよく吹いていたそうです。入れ物を開けるとハーモニカではなく、箸が一膳はいていました。その箸が素敵なお相手からのプレゼントで大切なものだから自分の大切なハーモニカ入れにしまっているとのこと。素敵なお思い出に心がキュンとしました。

●何歳になったのか聞くと、永遠の30代。ずっととらさず。私も見習ってそう答えよう。

●利用者様の若かりし頃の話をお聞き、うれしそうに話をする姿はとてもしげきされています。しかし、話の花が咲き、盛り上がりすぎてしまうと止まらなくなってしまいます。

●利用者様から「ありがとう」や信頼関係を築けた時の笑顔がとてもしげきと思えます。又、拒否のお多い利用者様には、なぜ?と考え、心穏やかに接して毎日声をかけました。すると、笑顔で応えてくださるのを見て、達成感でうれしくなり、もっとも頑張ろうと思えました。

●沢山の高齢者の方が来てくれますが、皆さんお1人お1人好みや過ごし方が違います。お1人お1人の好きなことをお聞きし、その人に合った遊び方や過ごし方を提案することが楽しいです。

# かいごのおしごと すごろく かいごってどんなおしごと？

●「あれ～上野駅どっちだっけがなあ？」と、  
認知症のおじいちゃんが徘徊。ここは山形、しかも  
庄内！！この方は、出稼ぎで一家を養っていた  
んだと思い出し、今は道に迷って不安になってい  
るから落ち着いてもらおうと、若いころ東京で働  
いていた時のことを聞いた。すると、すっかり落ち  
着き、「今日は良い日だった！」と、話す。まだ、  
今日が始まったばかりの朝。介護はひとを喜ばせ  
るお仕事だと思おう。

●歳を重ねると、自分の事ができなくなってしま  
います。大好きな家や家族と離れて生活すること  
があります。自分の居場所がないと閉じこもって  
いた方が、体操の時間になると参加してくれます。  
「あなたの声が聞こえると楽しくなる。」その笑顔  
から安心を感じました。自分に出来ること。みいつ  
けた！ 私たちの元気で不安な方に安心してもら  
うことができます。

●認知症になると色々なことが覚えていられなく  
なります。Aさんは、時間の感覚がなくなってきて  
いて、いつも朝だと思っています。朝食も昼食  
も夕食も、一緒に食べる人たちに「おはよう」と  
声をかけます。いろいろなことが分からなくなる  
ことはあっても、優しい人は認知症になっても優  
しい人です。Aさんは昔から、皆に笑顔で挨拶が  
できる人だったのだらうなと思います。

●子供のころ、将来は人の役に立ちたいと思っ  
ていました。大人になる頃には世の中、周りの人に  
必要とされる人になりたいと思うようになり、今  
はそんな仕事ができていると思います。

●利用者さんの中には、身体が不自由な方も多  
いです。ですが、介護士のお手伝いの仕方しだいで、食事が食べやすくな  
ったり、少し遠くまで歩けるようになっていたりします。日々の  
関わりの中で、どんなお手伝いをすれば高齢者の方が出来る  
ことが増えるか考えることも介護の魅力だと思います。

●おやつにお餅が食べたいとのことで、近くの  
和菓子屋から美味しそうな「古代米で作ったお餅」を  
買ってきて一緒に食べていたら「こっだい美味しい餅  
だなあ」との言葉。「おいしいですね」と返事をする  
と、「ちがうちがう」と。「こだうまい」と「こだ  
まい」の聞き間違えて2人で大笑いしました。

●心に余裕がなかった時、耳があまり聞こえない  
入居者様についつい口調が荒くなってしまった時が  
ありました。しかし、その方のケアが終わると、両手を  
合わせ「ありがとう」とお礼を言われ、自分のしたこと  
への罪悪感におそわれ、悲しい気持ちになりました。

●認知症になると、上手に思いを伝えられなくなり  
ます。「ダメ」と言われる事も多くなります。お掃除や人のお  
世話を好まれるAさん。片付けようとすれば、「大丈夫。  
座ってて。」何でも止められ「何でもさわると邪魔をし  
て！」と怒るのは、当たり前。一緒にしましょう。その  
一言がAさんを助けます。ここで一句「大丈夫。みんな  
あなたの味方です。」私たちはそのために居ますから。

●Bさんは、100歳の女性です。買い物のドライブに行  
ったとき、化粧品コーナーの店員さんに名を名乗り、  
「前に買った化粧水と同じものを」というと、5000円  
の化粧水が出てきました。そして、「キレイにして、も  
う一花咲かせなくちゃね」と、笑った顔がキラキラして  
いて、素敵なお歳！と思いました。

●孫くらい年齢の離れている職員は、お年寄りに人気  
です。失敗しても（少しの失敗）笑って楽しい出来事  
に変わる。

●なかなか食事をとってくれない方がいました。「あん  
たも食べろ～」と私に自分の食事をくれます。ある日、  
となりで一緒に食べるようにしてみたら…自分の食  
事を食べてくれました。時々、私のお弁当を食べようと  
することも…。

エピソードをお寄せいただきました、  
皆さま、ありがとうございました。